

施策番号	施 策 名	予算額(百万円)	
533	公共交通網の整備	318	
【2010年度の目標】 誰もが利用できる身近な移動手段として公共交通機関の利用が促進され、交通渋滞の緩和や環境負荷の軽減が図られています。			
項 目	基準年度の状況	1999年度実績	2001年度の目標 (2010年度の目標)
関西本線四日市～名古屋間の複線化率(延長37.2km)	53%	事業化の促進	事業化の促進 (76%)
関西本線亀山～加茂間の電化率(延長61.0km)	0%	事業化の促進	事業化の促進 (67%)

これまでの取組

地方バス路線維持費補助金については、地域交通(バス)を維持・確保するため、第3種生活路線への補助を行う市町村や自主運行バスを運行する市町村に対し、補助金を交付しました。

関西本線の複線電化については、沿線市町村との連携の下にPR時刻表の配布や沿線ウォーキングの開催など、利用促進事業を進めるとともに事業者への要望活動を展開しています。しかしながら、利用者の減少傾向が続いており、事業化には投資採算性を高める必要があることから、関西本線複線電化促進連盟において沿線の観光情報等の発信を中心としたホームページを開設(13年3月予定)し、交流人口の拡大による利用促進を進めています。

鉄道軌道近代化設備整備費補助金については、伊勢鉄道(株)(第三セクター)及び三岐鉄道(中小民鉄)に対し、レール重軌条化等の近代化設備更新についての補助を行いました。

地域交通環境整備事業については、「地域交通に関する需要予測調査」(11年度)、「新たな地域交通の導入可能性調査」(12年度)、鈴鹿市コミュニティバス実証実験への助成(11～12年度)を行い、生活交通の維持・確保に努める市町村の参考としていただけるよう調査結果をフィードバックするとともに、ITS施策について、有効な施策の可能性の検討を行いました。

平成13年度の取組

平成13年度は、地方バス路線維持費補助金について、「地域交通に関する需要予測調査」(11年度)、「新たな地域交通の導入可能性調査」(12年度)、鈴鹿市コミュニティバス実証実験への助成(11～12年度)を踏まえ、また国の動向を見ながら、地域交通(バス)の維持・確保にかかる県単補助制度を見直すとともに、新しい手法やシステムによる施策について、県は必要な情報提供等を行いながら、地域(市町村)での議論を促進させます。

鉄道軌道近代化設備整備費補助金については、引き続き、三岐鉄道(中小民鉄)に鉄道軌道近代化の補助を行います。

地域交通環境整備事業については、市町村を主体として生活創造圏ごとに設置された地域検討会に対する助言や情報提供等を通じ、地域特性に応じた持続性の高い生活交通の維持・確保に努める市町村を支援するとともに、ITS施策について、有効な施策の可能性の検討を進めます。

主な事業

- 地方バス路線維持への支援 (294,021(294,021)千円)
【(101)利用しやすい公共交通システムの構築】[地域振興部]
生活バス路線を維持しようとする市町村に対し助成します。
- 鉄道軌道近代化設備整備への支援 (8,400(8,400)千円)
【(101)利用しやすい公共交通システムの構築】[地域振興部]
中小民鉄の近代化を促進し、その経営収支及びサービスの改善並びに保安度の向上を図るため、国及び市町村と協調して助成します。

- 3 地域交通環境整備事業 (2,075 (2,075)千円)
【(101)利用しやすい公共交通システムの構築】[地域振興部]
自らが主体となって、生活路線を維持しようとする市町村を支援するとともに、地域ITSについて有効な施策の可能性を検討します。